

10種13分別の決定経緯と分別収集制度の評価における論点

1. 10種13分別の決定経緯（現計画策定の際の審議）

(1) 分別区分のあり方検討に係る基本方針

資源となるごみについては、可能な限り資源化を図り、最終的に焼却及び埋立処分されるごみを極力削減  
分別を徹底し、高品質なりサイクルを確保  
市民の利便性とコスト面を考慮

(2) 当初の分別区分案

9種12分別

区	分	収集回数	出し方
ごみ	1 燃えるごみ	週3回	ポリ袋
	2 燃えないごみ	月1回	ポリ袋
	3 粗大ごみ	随時	申込制戸別収集
資源	4 プラスチック製容器包装	週1回	ポリ袋
	5 ペットボトル	月2回	コンテナ・ネット ポリ袋
	6 びん	月2回	コンテナ
	7 缶	月2回	コンテナ・ポリ袋
	8 有害危険ごみ	月1回	ポリ袋
	9 古紙類 (①新聞, ②雑誌・雑紙, ③段ボール, ④紙パック)	月2回	ひも結束

(3) 市民意見聴取を踏まえた見直し

市民意見交換会	・拠点では遠い, 身近なごみステーションで収集を
パブリックコメント	・「枝」だけでなく, 「草・葉」も回収対象に
市民アンケート結果	・剪定枝の回収はごみステーションが望ましい(54.0%)

10種13分別へ

(4) ごみ処理

カレンダーの例

4月 2011 APRIL

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
27	28	29	30	31	1 燃やすごみ	2 プラスチック製 容器包装
3	4 燃やすごみ 枝葉・草	5	6 燃やすごみ	7 飲食用・化粧品びん 飲食用缶	8 燃やすごみ	9 プラスチック製 容器包装
10	11 燃やすごみ 枝葉・草	12	13 燃やすごみ	14 ペットボトル 古紙類 燃やさないごみ	15 燃やすごみ	16 プラスチック製 容器包装
17	18 燃やすごみ 枝葉・草	19	20 燃やすごみ	21 飲食用・化粧品びん 飲食用缶	22 燃やすごみ	23 プラスチック製 容器包装
24	25 燃やすごみ 枝葉・草	26	27 燃やすごみ	28 ペットボトル 古紙類 有害・危険物	29 昭和の日 燃やすごみ	30 プラスチック製 容器包装

2. 分別収集制度の評価における論点

(1) 主要な論点

公衆衛生

- ・腐敗しやすいものは速やかな収集が必要。

環境負荷

- ・高品質なりサイクルには分別細分化が重要。

(分別細分化により1品目あたりの排出量が減少。)

- ・収集日が少ないと分別意欲が減退。

- ・収集にかかる移動距離・時間が長いほど収集車稼働による燃料消費が増加。

(一般的に収集日が多いほど収集にかかる移動距離・時間も長い。)

利便性

- ・収集日が多いほど利便性は高い。

(出し忘れた際のストレスが軽減。曜日が固定されれば間違えにくい。)

経済効率性(収集コスト)

- ・収集日が多いほど収集にかかる委託料が増加。

(2) その他の論点

空き日の必要性

- ・集団資源回収をスムーズに行うためには行政収集の空き日が必要。

集団資源回収・拠点回収・店頭回収による補完性

- ・行政収集以外の排出ルートも含め総合的に検討すべき。